



「同窓会発展の為に」

同窓会長
杉山 俊明



今年の夏は異常とも思える酷暑でした。同窓生の皆様には如何お過ごしでしたでしょうか。

さて、7月28日に行われた同窓会総会は、5月にご就任された同窓生の越川新市長の講演を頂き、近年にない100名近い出席者の中、盛会に開催することが出来ました。ご参加頂きました同窓生の皆様には心より御礼申し上げます。早いもので、私も昨年の総会で会長としてご承認を頂き一年が過ぎました。昨年の「同窓会だより」にも記述しましたよ

うに同窓会の運営に当たっては「和から輪へ」をテーマといたしました。それは本校校訓にもあります、旧両校再編からなる「和」が「輪」へと広がり、新たな同窓会の創成を目指すものであります。とは言え、昨年は同窓会資料室の整備の他はこれといった事業は出来ませんでした。しかしながら、いくつかの課題も見えてまいりました。その一つが幹事会の在り方です。現在旧両校を合わせた新市立高校同窓生は3万人を超え、学年別幹事は650人余りを数えます。しかし、同窓会事業に参画する幹事は数える程しかおりません。同窓会の目的は会則第2条にあります様に「会員の融和を図り母校の充実発展に寄与する事」でありますが、その為には幹事の働き、幹事会の役目が重要

銚子市立銚子高等学校

同窓会報
第6号

発行
銚子市春日町2689番地
TEL 0479(25)0311
FAX 0479(23)4441
市立銚子高校同窓会
発行責任者 杉山俊明
編集長 田杭和彦
印刷 三友舎印刷

と考えます。同窓会、母校の発展の為に幹事の皆様により多く関与して頂くことが必要であります。そこで今後幹事会の在り方、充実を図っていきたく考えております。具体的には、会則第7条第4項にあります様に、幹事には学年幹事の外会長委嘱の幹事がおります。この種の幹事を増員することにより実務的に同窓会運営に参加して頂き、同窓会組織の充実を図り、同窓会の事業やあり方を考えていければと思います。同窓生の皆様にはこの旨をご理解頂き宜しくご協力頂けたらと存じます。

同窓会会員数 (卒業生総数)

	回数	計
旧制中学校	8	668
併設中学校	2	51
旧銚子普通科	60	18,575
旧銚子工業化学科	48	3,500
旧銚子中学・高校合計		22,794
銚子西普通科	30	6,547
銚子西看護科	29	1,169
銚子西(専攻科)	2	※ 73
銚子西高校合計		7,716
銚子普通科	5	1,600
銚子理数科	3	126
銚子看護科	2	77
銚子(専攻科)	4	※ 141
総合		33,713

※専攻科は全員本校看護科卒 (平成25年3月)

平成25年7月28日(日)同窓会総会 懇親会に参加された皆さん



母校は今



校長 長谷川 茂

『更なる飛躍を目指して』

同窓会会員の皆様には、平素より母校へ思いを寄せていただき、また、物心両面にわたり御支援をいただきまして誠にありがとうございます。衷心より感謝申し上げます。

本校は、平成20年4月に「銚子市立銚子高等学校」と「銚子市立銚子西高等学校」とを統合して、新生「銚子市立銚子高等学校」としてスタートしました。統合前の両校の輝かしい歴史と伝統を引き継ぐとともに、教育活動の充実を図るため、単位制の導入や理数科の設置、45分7時限授業の導入、土曜授業の実施、少人数学習熟度別授業の実施等の様々な取組を行ってきました。また、小中学校・大学との連携やキャリア教育、SPP等にも積極的に取り組む、魅力ある学校づくりを推進してきました。

さらに、生徒一人一人に応じたきめ細かな学習指導・進路指導や進学講習、自習支援等の充実を図るとともに、部活動や文化祭・球技大会等の学校行事の活性化を図り、「面倒見の良い学校」「活力に満ちた学校」を目指して取り組んでいます。

進路実績は、毎年着実に向上しています。今春の入試では、国立立大学に61名、私立大学に59名、専門学校に35名が合格しました。また、公務員に8名、民間企業等に8名が難関を突破して就職しました。これは、一人一人の生徒が、それぞれの夢や希望の実現に向けて最後まで諦めずに粘り強く取り組んだ努力の結果であり、高校入学から卒業までを見通した市立銚子高校の進路指導の成果だと考えています。

部活動では、加入率が80%を超えるなど、部活動を頑張る生徒の数は年々増加しています。5月に実施した球技大会では、優勝を目指して、クラス一丸となつて頑張っていました。また、6月に実施した文化祭では、来校された皆様に市立銚子高校の伝統と校風とともに、生徒達のパワーとエネルギーを発信できたものと確信しています。

日々、生徒達は、学業に、部活動に、学校行事に懸命に取り組んでおり、更なる成長が期待できます。また、部活動や学校行事は、学校の元気をはかるバロメーターであり、市立銚子高校のポテンシャルの高さを示しています。

本校は、統合からわずか5年の間に、学習指導や進路指導、生徒指導等で実績を積み重ね、多方面から高い評価を得ています。現状に満足することなく、更なる飛躍を目指して、教育活動の更なる充実を図り、教育目標「確かな学力と豊かな心・健やかな体を育み、文武両道の全人教育を通してリーダーとなる人材を育成する」の達成のため、教職員力を結集して取り組んでまいります。

母校の後輩のため、本校の教育活動にお力添えをお願いするとともに、同窓会の益々の御発展を祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。





平成25年度 入学式



平成24年度 卒業証書授与式



平成25年度 文化祭



吹奏楽部 東関東大会 金賞受賞



顧問の亀山綾教諭
宮内 楓(2年)
関東大会個人選手権選抜大会出場
弓道部

部活動報告

主な大学(現役合格者数)
 (国公立61)北海道大2、東北大1、お茶の水女子大1、山形大5(医・医1)、千葉大7、筑波大4、東京外国語大1、埼玉大2、茨城大9、信州大2、弘前大4、秋田大1、福島大1、宇都宮大1、新潟大1、宮崎大1、首都大東京3、高崎経済大2、秋田公立美大2、会津大1、千葉保健医療大5、山梨県立大3、都留文科大1、静岡文化芸大1
 (私立591)早稲田大4、慶應大

進学

今年の進路状況



ベルモンテ ウィンドオーケストラ(吹奏楽部OB会)東関東大会 銀賞受賞

看護6、千葉医療附属看護1、白十字看護1、千葉県立農業大学校1
 (公務員8)千葉県職員1、東京消防庁1、千葉市職員1、千葉市消防1、銚子市職員1、銚子市消防1、旭市職員1、神栖市職員1
 (民間企業等8)東洋合成工業(株)1、社会福祉法人福祉楽団1、DIC(株)(大日本インキ)1、(株)ニチノサービス1、養老の滝(株)1、自営(農業)1

専門学校31)旭中央病院附属看護6、千葉医療附属看護1、白十字看護1、千葉県立農業大学校1

平成25年度 進学状況

種別	普通	理数
国公立大学	34	22
私立大学	166	12
公立短大	—	—
私立短大	8	—
専門学校	31	—

3、上智大1、東京理科大7、学習院大8、明治大7、青山学院大8、立教大9、中央大8、法政大8、同志社大4、立命館大7、日本大35、東洋大29、駒沢大13、専修大24、獨協大3、文教大7、神田外語大5、亜細亜大12、北里大4、(獣医1)、國學院大1、国士館大14、成蹊大6、大東文化大13、玉川大7、帝京大24、東海大10、東京工科大6、東京電気大5、東邦大9、明治学院大19、千葉工大15、千葉科学大32

平成25年 同窓会役員

役職	氏名	卒年
会長	杉山 俊明	昭和44年
副会長	波木 睦	昭和38年
副会長	平野 恭男	昭和45年
副会長	大木 乃夫	昭和45年
副会長	島田 洋二郎	昭和48年
副会長	浅野 裕子	昭和54年
郡会長	高野 幸夫	昭和56年
副会長	伊東 均	昭和56年
副会長	笹本 尚子	昭和56年
事務局長	岡根 康裕	昭和53年
事務局次長	佐藤 弘之	昭和51年
事務局次長	林 俊彦	昭和55年
会計	石橋 高博	昭和59年
会計	安藤 裕子	昭和57年
会計監査	三浦 衛	昭和57年
会計監査	加瀬 隆良	昭和61年
総務委員長	平野 恭男	昭和45年
組織委員長		
広報委員長	田杭 和彦	昭和54年
事業委員長		
顧問	西川 照幸	昭和18年
顧問	信田 臣一	昭和38年
顧問	宮内 敏	昭和36年
顧問(校長)	長谷川 茂	
顧問(教頭)	田中 豊明	昭和52年
顧問(教頭)	土屋 俊一	
顧問(事務長)	大塚 明	昭和51年



波木睦東京支部長

平成 25年度 同窓会基金 会計予算書

収入金額	17,110,000
支出金額	4,000,000
年度末残高	13,110,000

収入の部 (単位 円)

項目	本年度予算額	前年度決算額
繰越金	14,609,286	14,720,520
積立金	500,000	0
財政調整基金	2,000,000	0
雑収入	714	2,166
収入合計	17,110,000	14,722,686

支出の部 (単位 円)

項目	本年度予算額	前年度決算額
繰出金	2,000,000	113,400
財政調整基金	2,000,000	0
次期繰越金	13,110,000	14,609,286
支出合計	17,110,000	14,722,686

7月28日(日)曜日、午後3時から、講演会、総会、懇親会が順次開催された。参加者99名。



越川信一銚子市長

講演は
銚子市長 越川 信一氏

同窓会 REPORT

懇親会は増田平蔵先生乾杯の御発声により始まった。共催の還暦同窓会には恩師の小松繁先生、佐久間弘先生、猿田正城先生にお越しいただき、39名の参加があった。懇親会は

7月28日(日)曜日、午後3時から講演会、総会、懇親会が順次開催された。参加者99名。講演会は銚子市長の越川信一氏(昭和54年卒)が「銚子市政について」と題して、銚子市の現状と政治的課題についてわかりやすく講演された。総会では平成24年度の事業、決算の承認と平成25年度の事業計画、予算が承認された。なお、議事のその他のところで、東京支部の有志から「本校への千本の桜の寄贈、植樹」についての提案があった。ただ、本校がPFI(建設、維持管理が民間資本の協力を受けて行う方式)事業で建設されていることから植樹できるスペースに限りがあることや費用、維持管理などいろいろと検討し解決しなければならぬ課題があると思われため会長預かりの検討事項とした。

講演会では銚子市長の越川信一氏(昭和54年卒)が「銚子市政について」と題して、銚子市の現状と政治的課題についてわかりやすく講演された。総会では平成24年度の事業、決算の承認と平成25年度の事業計画、予算が承認された。なお、議事のその他のところで、東京支部の有志から「本校への千本の桜の寄贈、植樹」についての提案があった。ただ、本校がPFI(建設、維持管理が民間資本の協力を受けて行う方式)事業で建設されていることから植樹できるスペースに限りがあることや費用、維持管理などいろいろと検討し解決しなければならぬ課題があると思われため会長預かりの検討事項とした。

平成 25年度 同窓会 会計予算書

(単位 円)

収入金額	6,230,000
支出金額	6,230,000
差引残高	0

収入の部 (単位 円)

項目	本年度予算額	前年度決算額
1 入会金	1,292,000	1,304,000
2 会費	1,100,000	1,244,040
3 寄付金	0	0
4 繰越金	1,825,829	1,691,437
5 財政調整基金	2,000,000	0
6 雑収入	12,171	14,230
収入合計	6,230,000	4,253,707

支出の部 (単位 円)

項目	本年度予算額	前年度決算額
1 卒業記念品費	230,000	207,837
2 行事補助費	100,000	47,080
3 会運営費	100,000	48,946
4 会議費	100,000	53,967
5 委員会費	50,000	12,520
6 記念品費	250,000	205,000
7 接待交際費	100,000	100,000
8 印刷費	700,000	478,800
9 通信運搬費	1,500,000	1,062,993
10 奨励金	300,000	70,000
11 予備費	200,000	100,735
12 慶弔費	100,000	40,000
13 同窓会基金	2,500,000	0
収入合計	6,230,000	2,427,878



和やかに、たいへん盛り上がった。

3月7日(金)
3月6日(木)
9月下旬
7月28日(日)
6月30日(日)
4月9日(火)

平成25年度 同窓会事業計画

入学式
第1回幹事会
(事業・会計・役員・総会等について)
同窓会総会
講演会
講師 銚子市長 越川信一氏(昭和55年卒)
総会 16時 (事業・会計・他について)
懇親会 17時 (還暦同窓会を同時に開催)
「同窓会だより」(第6号)発行
卒業証書授与式
同窓会入会式

本本校校
本本校校
本本校校

「職業人講話」

平成24年11月15日、1年生を対象に「夢を育む授業」が行われました。担当されたみなさんです。(敬称略)



米谷 博 昭和57年卒
国立歴史民俗博物館/学芸員



小林 幸也 昭和56年卒
房総法律千葉事務所/弁護士



五十嵐伸光 昭和54年卒
さざんか園副施設長/福祉



宮内 繁男 昭和 56年卒
千葉銀行木更津支店/金融



鈴木 克弥 平成13年卒
千葉県立香取特別支援学校/教師



野本光太郎 平成 17年卒
千葉県税務事務所/公務員



吉田 孝至 昭和 50年卒
株式会社 花清/経営者



櫻井 公恵 昭和61年卒
(株)櫻井謙二商店/経営者



渡邊亜紀子 平成53年卒
茨城県立こども病院/臨床心理士



越智まりこ 昭和58年卒
藤原歌劇団/オペラ歌手



菅谷 武芳 昭和60年卒
産業技術総合研究所/研究者



常陸 圭介 平成11年卒
藤田保健衛生大学/研究者



伊良部真一郎 平成10年卒
千葉労災病院/医師



石橋 美沙 平成17年卒
旭中央病院看護部/看護師



岩田 佳之 平成 9年卒
旭中央病院薬剤部/薬剤師

会費の納入をお願いします。年会費1,000円

振込先 郵便局 □座名 銚子市立銚子高等学校同窓会 □座番号00100-2-189041

一年は早いものです。つい忘れがちなので是非この機会に終身会費をお願いします。(10,000円)

終身会費納入者 (平成24年9月より平成25年8月まで納入分) (卒業年順・敬称略)

昭和 20 年卒 岩 井 秀 夫	昭和 35 年卒 椎 名 弘	(名)奥田英治 向 後 賢 司	伊 勢 崎 翼 佐 久 間 茂 男	昭和 56 年卒 島 田 万 紀 子	宮 内 孝 枝 宮 川 将 志	平成 13 年卒 小 林 智 則	平成 18 年卒 杉 山 貴 俊	伊 東 勇 人 遠 藤 昂 志
昭和 27 年卒 池 永 光 男	昭和 36 年卒 川 崎 浩	亀 山 博 史	(田)増田靖代 越 川 和 政	(早)川在田恭子 伊 東 均	椎 名 聖 弥 関 大 輔	小 島 嘉 人 鈴 木 克 弥	内 山 聡 平成 23 年卒	島 田 直 哉
昭和 28 年卒 高 根 茂 夫	青 柳 繁	昭和 45 年卒 (金山)金子恵久子	小 川 恵 子	山 口 一 男	高 津 光 晴	杉 山 裕 俊	大 槻 美 保	田 宮 知 佳
昭和 33 年卒 (石井)小山朱美	昭和 38 年卒 石 井 繁	鎌 倉 金	昭 和 50 年卒 加 田 涉	植 田 勇 次	平成 7 年卒 松 本 行 央	平成 14 年卒 伊 勢 崎 慧	山 口 千 穂	濱 崎 匠
昭和 34 年卒	昭和 41 年卒	昭 和 46 年卒 飯 島 雅 美	昭 和 51 年卒 加 瀬 ゆ かり	昭 和 61 年卒 神 原 由 利 子	平成 8 年卒 宮 本 俊 一	平成 16 年卒 伊 勢 崎 清	伊 勢 崎 泰 金 井 日 向 子	滝 雄 太 郎
		昭 和 47 年卒		平 成 3 年 卒			平成 24 年卒	山 中 晶 裕
								岡 野 友 希
								鈴 木 愛 美

終身会費 納入者一覧

「銚子人一コミュニティラベルガイドー」出版に向けてご協力をお願い

銚子市制施行80周年記念事業・平成25年度銚子賞受賞事業
銚子人制作委員会 小足雄高 (平成9年卒・銚子市役所職員)
藤本健二 (平成11年卒・公認会計士・税理士)

このたび、銚子市を元気にするため、現在の銚子のよさを伝えるガイドブックを作ることに致しました。これは地域に住む人に焦点をあて、本の制作も地域の人が行う、新しいタイプのガイドブックです。地域の魅力的な人々をきれいな写真とともに紹介し、全国の人たちに銚子に関心を持ってもらい、また地元の人々には、銚子を再発見するキッカケとなる本を目指します。全国流通させることにより観光客を誘致し、地域の人の交流のキッカケにもなる、まちおこしにとっても意味のある本になると考えます。

ただ、出版には400万円を必要とし、寄付をお願いしています。銚子にゆかりのある皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

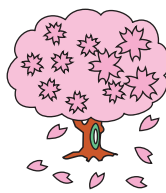
問合せ先 銚子人制作委員会

メール: team.choshijin@gmail.com
WEB: http://choshijin.com

取引口座 [銀行] 銚子商工信用組合
[店舗] 本店 (051)
[口座] 3067034
[名義] 銚子人制作委員会 委員長 力武若葉
(フリガナ) チョウシジンセイサイクインカイ インチョウ リキタケワカバ

*ご寄付の際に上記メール宛に、お名前、ご住所、ご連絡先(TEL/FAX)をお知らせ願います。出版後に寄付額に応じてお礼を進呈させていただきます。

同期の桜



北から南から

あの人・この人 P.S.元気ですか？



茨城から見た銚子 横田 喜一郎 (S52卒)

昭和52年に「お山」を卒業。以来、大学も就職も茨城県で、40年近くになりますが、心はいっつも銚子にありました。初めて行った頃の茨城は、空はもちろん高速道路も無く不便な事が多くて、いろいろな面で遅れを感じましたが、現在は高速道路の他、港湾、空港や鉄道などの整備が進み、商業も発達して大変便利になりました。また、筑波や常陸那珂など

で開発が進んでいますし、ご存じの通り鹿島臨海コンビナートには多くの企業が進出して、銚子方面からも多くの人が働きに行っています。

これまでずっと土木関係で、それらの開発やインフラ整備などの仕事に携わり、その過程をリアルタイムで見えて来られたのは幸運であったと思いますが、その一方で銚子の事はいつも気がかりでした。

さて、今までの自分の勤務の中で、2年間ほど国に派遣され、全国の災害現場を調査していた事があります。

今もそうですが、近年の気候変動のせいで集中豪雨、台風などが多発し被害が発生してありました。東日本大震災の前でもあったが、大きな地震などでもあって全国何処かしらで災害が発生し、毎週のように出張し、文字通り全国津々浦々、山奥や離島などにも調査に行きました。

そのなかで、どんな自然条件の厳しいところにも人の営みがあり、あらためて日本は広いと感じましたが、地元の県や市町村の職員が、自分たちも被災者であろうに寝食を忘れて復旧に励む姿を見て、頼もしく、また頭が下がる思いをしました。

翻つて、銚子は災害が少なく、平坦で気候温暖、大変住みやすいところですよ。安心・安全も、一つの売り財産になると思います。

また、銚子は道路などの整備が遅れていますが、逆に「歩いて暮らせる街」で、名物、専門店などが多く、食材も豊かで自然美もあります。他と比べ

れば、銚子は地域資源に恵まれていると思います。

我々が子どもだった頃の賑わいを銚子に取り戻し、子ども達が帰って来て就職できるようにするには、どうすればよいか？簡単な事ではありませんが、「お山」の卒業生みんなの英知を集め、様々な立場から考えていく必要があるように思っています。

毎日思う事

椎名 篤史 (H4卒)



私は、高校を卒業し、ものを作って人に喜ばれる仕事に就きたいと思いケーキ職人になりました。製菓学校を出てから、柏、神栖、銚子で14年間修行をし、平成18年に銚子の本城町に洋菓子店をオープンしました。

お店の名前は、「Le.wiz!」(ル ウィズ!)といます。フランス語で「それいいね!」という意味です。「それいいね!」と思つてもらえるようなお菓子を、毎日考え、作っています。

お店には、四季折々の素材を使って、季節感のあるお菓子が並べられるように、いつも心掛けています。

春は桜や抹茶を使い、ロールケーキやモンブランなどを作り

ます。もちろん、食べても美味しいのですが、どれも色がとてもきれいで、お店の中が、やさしいパステルカラーに包まれます。

夏は、メロンや桃を使います。メロンをくり抜いて、中に生クリーム、スポンジ、プリンを入れメロンで蓋をした「メロンボート」、桃の種をくり抜いて皮を剥き、生クリームとカスタードクリームを詰めた「桃シャンテリー」。どちらも、毎年楽しみにしてくれるお客様が増えてきて、喜んでいただいています。

秋はカボチャや栗を使い、シフォン、ブリュレなどを作ります。心ひかれる食材が多くなる季節なので、何を使って何を作るうか迷つてしまいます。

冬は、イチゴやチョコレートを使い、タルトやマカロンを作ります。バレンタインデーの時期には、チョコレートで恐竜やロボットなどを作ります。同じ素材でも、作り方次第で、味や見た目が大きく変化します。お客様の心を打ち、舌を満足させるお菓子が作れる様に、日々勉強しています。

バレンタインデーやホワイトデー、クリスマスなどのイベントの時には、徹夜をして作ったりもします。大変ですが、お客様の「美味しかったよ」「ありがと」「またお願いね」という言葉で疲れが吹っ飛び、またがんばれます。

今年の10月で、開店してから7年が過ぎます。このように続けて来られたのは、いつも当店のお菓子を楽しみにしてくれるお客様、色々な意味で力を与える家族、そして、毎日大変な事もあると思いますが、

自分の要求に応え、ついてきてくれる、スタッフみんなのおかげだと思ってもありがたく思っています。

11月初旬に、7周年記念セールを致します。是非お店にいらして下さい。スタッフ一同心よりお待ちいたしています。

私の考える看護

早川 奈津美 (H19卒)



私は市立銚子高校の看護科、専攻科を卒業後、看護師として国保旭中央病院で四年間勤務しました。臨床現場へて様々な患者様との出会いがありました。一週間程度の入院で病気が完治する患者様、癌と告知された患者様、予後が限られた患者様、中には入院時から意識のない患者様もいました。元氣になつて笑顔で退院していく患者様を見送る一方で長かった闘病生活の末亡くなつていく患者様のお看取りも経験しました。その度複雑な気持ちになりました。看護とは何か、自分には何が出来るのかと自問自答を繰り返しました。新人の頃は、生と死が隣り合わせの環境の中でうまく気持ちを切り替えられませんでした。しかし、四年という経験を通し

て終末期患者にも希望はあることを知りました。新人の頃の私は、終末期患者と関わるのが怖く病室から足が遠のいてしまっていました。それは死に対しマイナスの感情が強かったからだと思えます。でも今は悔いのない毎日を過ごしてもらうために少しでも患者様の力になりたいと思えます。患者様にとつての希望とは「最後まで食事は口から摂りたい」、「孫の成長を少しでも長く見たい」、「最後まで痛みなく過ごしたい」など様々ですが一つ一つの大切な望みを共に叶える努力をしたいです。そこに看護師としての喜びや、やりがいを感じるようになりました。看護師としての責任は重く、心が折れそうになったり、なぜこんな道を選んだのかと思ってしまう事もあります。そんな時思い出すのは学生時代を共に過ごした友達や、看護の基礎を教えてくれた先生方です。病院実習中は記録に追われ、十分な睡眠もとれない毎日でした。患者様に対しても納得のいく看護ができず辛い思いをたくさんしました。それでも看護師になりたいと思えたのは、友達や先生方の支えだったり、実習先での様々な人との出会いのおかげです。そういう在学中の経験が私の看護師としての基礎となりました。

これからも初心を忘れず経験を重ね、看護師としても人としても成長していきたいです。

恩師からの便り

お山バスケットボール部、

創部、創成期から関東大会まで

増田 平 蔵(常世田) (S25年卒)



創部は昭和二十四年、高三の時である。このときの部員は吉田、高谷、佐々木、栗原、寺嶋、山口、田中嶋、村田、常世田の九人であったと思う。バスケットを知る人、教えてくれる人もいなかった。皆、見様見真似の練習である。なぜかあの厳しい時代にバスケットボードを造ってくれた。土をならし踏み固め立派なコートができ上がった。ボールは一個、牛革を一枚一枚縫い合わせ球体にしたものにチューブを入れ、空気を入れフックを使って革紐で閉じるのだが、これが大変な仕事で、よくフックでチューブを刺してパンプさせ、自転車屋に直行、これを何回やったことか。ボールは少し使うとすぐに不規則な楕円形になる。それでも県大

会に出場、長狭高に14対12で敗れる。無論私はベンチウォーマー。こうして我々初代のバスケットボールは終わった。それから四年後の昭和二十九年四月お山に就職しました。恩師の先生方ばかりでしたが、先生方にはよく面倒を見て頂き可愛がって頂きました。家田先生から野球部顧問をやってくれと云われ二つ返事で引き受けましたが、当時の野球部は十二、三人で弱く、予算も少なく、問題児の面倒を見ることもありました。初任給八千四百円、手取六千円の頃、ボール一個五百円、バット(木製)一本七、八百円。ボールの縫い目がすぐ切れ、バットはよく折れる。このような状態で二年間夢中で過ごしてきて、気がついたら貯金は0。実家に寝泊まりし、三食食べ実家に一円も入れず。二十四才にもなってこれではと野球部を辞めさせてもらいました。

生徒達はよく頑張ってくれました。特に昭和二十九年秋の県新人大会が銚子市営球場で行われ優勝した長生高と準決勝で対戦、五対四で敗れたが生徒達も私も自信と誇りを強く持ちました。

昭和三十一年四月バスケットボール部顧問に就任。前年六月に完成した体育館は、柔道、剣道、卓球、体操、バスケットの五クラブで使用。時間制、前半後半の交代制で全面を使えるのは水曜一時間、土曜一時間三十分。練習時間が大変貴重でした。部員は三年生の海老、須之内、菅谷、谷下田、佐藤、二年生の伊橋、越川、この七人に最初にやらせたことは、スリーメンを七秒で行って来る。無理な事でしたが、生徒は出来ませんと云わずに頑張ってくれました。もう一つ云ったこと「どのチームに負けてもいいが銚商にだけは負けるな。」当時から銚商は伝統的に強かった。このチームは県大会で長狭高と当たることになった。匠差高での練習試合でダブルスコアで負けている。前夜宿でセンタージャンプの打ち合わせをした。翌日のセンタージャンプはなんと打ち合わせ通り一、二、三でゴール。これで皆調子に乗り一進一退を繰返しながら到頭

勝った。初代の私としては嬉しい限りですが何か因縁めいたものを感じた。

この五年後、銚商と接戦の末敗れてしまったが、この時の主将田向君が暗い教室で一人悔し泣き二時間以上、八時過ぎやつと帰ってもらった。この光景は今でも胸に焼きついている。このような思いが後輩達に伝わっていったのか、二年後の昭和三十八年初めて銚商に勝つ。

就任以来七年目、感無量であった。この時の部員は三年生の高木、豊田、白井、堀、二年生の泉、菅谷。この六人で関東予選Bブロックを勝ち抜いて一位になり、関東大会初出場、慶応高校と対戦敗れる。何が何だか分からないうちにゲームは終わっていた。私自身も生徒も相当上がっていたようである。場数を踏んで次の大会には勝ち上がれることを願い、よく頑張ってくれた全部員に感謝しながらこれで終わりとなります。



昭和34年 卒業アルバムより

恩師からの便り

無からの出発「隅を照らした西高」

出口 節



旧猿田小学校を仮校舎として開校した西高はまさに「無」からの出発でした。しかし、創立当初から面倒見のよい先生方と純朴な生徒が一体になって新設西高の土台創りに励む意気込みが原動力となり、「伝統」となつて進展したのです。

創立から僅か六年で、陸上部の全国大会出場、弓道部の国体出場、更に野球部が甲子園出場などの快挙で、もはや新設校ではなく地域から高く信頼される学校に成長し活気に満ちていました。

バスケット部は、猫の額のよくな狭い校庭にアウトコートをつくり、人見主将(初代西高同窓会長)を中心に開校と同時に発足した。体育館のない活動ですから、生徒は大変でした。土曜日や休日は近隣の学校の好意で体育館を借用させて頂き合同練習や試合を回りました。

創部三年目、県総体に初出場、青空天井のチームがブロック代表となり、今までの生徒の労苦が報われました。

創立四年目に待望の体育館が施工して本来の部活動になり、男子は五年連続県大会に出場、昭和五十六年銚子商より石毛教諭を迎え、新たな刺激を受ける。又、鴨川市で毎夏に開催されている強化合宿に参加し、県内外のチームと強化試合をしチーム力向上の刺激とした。昭和五十八年女子初の県新人戦に出場、昭和六十三年初のブロック大会で全勝優勝。平成五年、3ガードの印象深いチーム、平成八年攻守のバランスのとれたチームで初のベスト16に進出。

創部三年県大会初出場以来ほぼ毎年県大会出場の常連校としての地位を保つてはいたが、ベスト8の壁は厚かった。平成十二年、男女共県大会出場を最後に定年退職した。

創立から二十四年間お世話になった西高の名前が消えなくなった。僅か三十二年足らずです。非常に複雑な思いでした。しかし旧市立高校と旧西高が合併した新銚子市立高校の教訓は「和」です。早くも五年の歳月が流れ、同窓会も合併し、バ

スケルト部のOB、OG会も合併し活動しています。西高校の卒業生の皆さん、教育方針の一つ「隅を照らす」を胸に今まで以上の活躍を祈念し、併せて新銚子市立銚子高校の更なるご発展を祈念しています。



平成12年3月 男女県大会出場 現役最後のチームを率いて



昭和55年卒業アルバムより



昭和54年卒業アルバムより



銚子市立銚子高等学校 同窓会総会 懇親会

還暦同窓会 (昭和47年卒)

